

幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する 英語教育の学習プログラムの構築

北條 礼子*・大田 亜紀**

0. はじめに

近年、筆者がコーディネータとなり、大学と附属幼稚園、附属小学校との協同の下、大学院生、学部生、研究生による英語活動の出張授業を実施している。本稿は、平成19年度～平成20年度上越教育大学研究プロジェクト「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習プログラムの構築」(代表者：北條礼子)の取り組みの一環として実施している大学と附属幼稚園、附属小学校における英語活動の研究成果の一部を報告するものである。同英語活動の背景となる概念だけでなく、平成20年度に開発している学習プログラムについて紹介する。

1. 研究の背景

1.1 これまでの小学校英語活動の経緯

2008年3月28日に文部科学省は、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の改訂を告示した。小学校における外国語(英語)活動導入は、平成21～22(2009～2010)年度の移行期間を経て平成23(2011)年度より、高学年の5、6年において週1回、年間35時間程度、正式に導入されることが決定された。

これまで小学校英語活動は、2002年度に正式導入された総合的な学習の時間の中の国際理解の一環として位置づけられ、実施されてきた。国際理解の一環としての扱いであることと活動内容は各小学校の自由裁量に任されていたことから、活動内容は多岐にわたってきた。

しかし、文部科学省(2008)の平成19年度小学校英語活動実施状況調査結果をみると、全国21,864校の公立小学校のうち、97.1%にあたる21,220校が英語活動を実施していた。しかし、97.1%といっても、活動内容や年間授業時数にはかなりの格差があり、今回の必修化はこの格差を埋めることが小学校外国語(英語)活動の必修化の大きな理由であるといわれている。

1.2 児童期の特徴

中山(2001)はStevick(1982)の「幼児・児童期の子どもは感覚や運動を通して物事を捉え、記憶していく」という指摘やAsher(1969)の「右脳が運動・動作と直結して、動作を通じて言葉を塊として認知・記憶していく」という指摘に触れ、さらに児童は五感を用いた学習を好む時期にあるとして、その時期の特徴を以下の10点にまとめている。

- ①豊かな想像力や連想力を持ち、想像し、推測することを好む。
- ②未完成や不完全なものを好む。すなわち、想像し、推測し、考える余地のあるものを好み、それを求める。
- ③未知のものに対して旺盛な好奇心や知識欲を持っている。
- ④物事を全体的に捉え、その核心を直感的に見抜く。
- ⑤あらゆる言語の音を聞き分け、発音できる機能をもっている。
- ⑥模倣や反復練習を好む。
- ⑦リズムのある歌やライムを好む。
- ⑧口を大きく開け、大きな声を出すことを厭わない。
- ⑨ジェスチャーやアクションを喜ぶ。
- ⑩物事に対して偏見が少ない。

また、箕浦(2005)は、9歳前後の児童の特徴をまとめているが、以下に示す表1はその一部抜粋したものである。

* 上越教育大学 ** 福岡県粕屋郡志免町立志免西小学校

表1 9歳前後の特徴

特徴	9歳以前	9歳以降
集中力	リズムに乗って体を動かし、おもしろいと感じる間、集中する。	興味・関心のあること、知的好奇心の起こることに集中する。 理解できないことには集中できない。
歌 (歌うこと)	体を自然に動かして歌を楽しむ。	体を曲に合わせて動かさない。歌の最中に自意識がある。のめり込めない。
覚え方・学び方	歌・チャンツ・文を数回聞いて、全体を口ずさむ。	各語・各行を確実に理解・暗記しようとする。
読むこと	人に読んでもらうことが好き。 自分では読めない。	読むこと・読めることがうれしい。
書くこと	書くことに向いていない。	書けることがうれしい。

表1から、児童は英語活動においても9歳前後でかなりの変貌を遂げることがわかる。

また、文部科学省(2008)の平成19年度小学校英語活動実施状況調査結果によると、「歌やゲーム」などが英語活動の主流を占め、その実施率は第4学年で98.2%、第5学年で97.8%、第6学年で97.3%となっている。しかし、歌やゲームばかりでは、児童は英語に親しむことはできるとしても、児童の発達段階や特徴を考慮に入れたとき、知的好奇心を刺激するなど、英語に親しむ以上のねらいを期待することは難しいと考えられる。児童の発達段階を考慮した、楽しいだけに終わらない英語活動プログラムを構築することは意義があるといえよう。

1.3 文字指導について

文科省はこれまで文字指導を推奨してこなかったが、樋口編(2005)は、文字指導は児童の知的欲求や興味に合致していることなどをあげ、文字の指導をことさら遅らせる必要はないと述べている。文部科学省(2008)による平成19年度小学校英語活動実施状況調査結果の活動内容をみると1年生から「文字に触れる活動」が行われ、6年生では実施率が5割弱となっている。また、文科省が全国の拠点校に配布した「英語ノート6年生」の最初でアルファベットや色々な文字が取り上げられている。

ところで、ベネッセコーポレーションの小学校英語に関する基本調査(2006)結果をみると、英語活動が嫌いな理由として児童があげた第一の理由は「英語を読むことがうまくできないから」というものである。小学校英語活動では、読む活動があまり行われていないことから、児童が読めないのは無理のないことであると考えられる。それにもかかわらず、英語活動が嫌いな理由として「読めない」ことがあげられているのは、英語を読みたいという児童の気持ちが実は強いからではないかと推測される。

野呂(2007)は、小学校からの文字指導の必要性を指摘している。小学校から英語学習を始める場合には、活動の初期段階で大量の英語の音声に触れることにより音韻認識力を高めることがまず必要であり、慣れてきた段階で、音声の構成要素と文字を関連づけるフォニックスの練習を徐々に取り入れ、書記素と音素の変換規則を身につけさせる必要があると述べている。このような訓練を小学校で十分に行えば、英単語がスムーズに読め、また書けるようになり、中学校での音読や文字指導における「つまずき」が少なくなるとしている。

1.4 これまでの出張授業の経緯

筆者が中心となり、2006年秋から、附属幼稚園と附属小学校に、大学院生、学部生、研究生が構成メンバーとなる、ティーム・ティーチング(TT)形式の出張授業を実施している。

同幼稚園における出張授業は、園児が英語に親しむことをねらいとし、月1回30分を目途に同幼稚園年長組を訪問している。活動内容は、多少のバリエーションはあるが、「英語の歌(ハローソング)、4名ほどの出張授業者が園児一人ひとりに名札を渡しながらの簡単なあいさつ、チャンツ、ゲーム、絵本の読み聞かせ、英語の歌(グッドバイソング)、挨拶を伴う名札の返還」である。担任教諭からは、園児が英語活動の時間を楽しみにしていることや、チャンツの一部を時折園児が口ずさんでいるとの感想が寄せられている。実際、毎回の出張授業の際に出張授業チームメンバーの姿をみると、園児は元気な声でHello!と声をかけてくれる。

附属小学校においては中学年を対象とし英語の文字学習を中心とし、10月から全体で約10回の出張授業を実施している。毎週各回30分の英語活動である。小学校英語活動のねらいはコミュニケーション能力の素地を作ることとされ

ているが、附属小学校では年間20時間程度の英語活動が行われている。コミュニケーション活動は附属小学校が主に担当し、この活動を補完する文字学習活動として、大学からの出張授業が行われている。2008年度は、3年生は2007年度と同様に、アルファベットの大文字・小文字の読み方とそのフォニックス読みの学習を実施中である。3年生にとってこのような文字学習が退屈なものにならないように、ドリルの部分にゲーム性を持たせるカードゲームやピコピコハンマーゲームなどを取り入れている。4年生では、昨年のアルファベット大文字・小文字の読み方とそのフォニックス読みの学習の継続として、昨年の学習から一歩進んだフォニックスの基本的規則を扱っている。試行的な学習であるので、4年生児童の理解の状態を把握しながら、あせることなくゆっくり学習を進めているが、現在は「サイレントe (マジックe)」を扱っている。附属小学校の英会話主任教諭から、4年生児童は読める英単語が増えてきている傾向がみられるとの感想が寄せられている。

今年度は、2009年2月からの実施予定であるが、2年生においてもアルファベットの大文字の読み方のみの学習を計画している。

2. これまで作成した英語活動学習プログラム

ここでは、平成20年(2008年)度に作成してきた具体的な英語活動学習プログラムについて述べる。附属幼稚園、附属小学校3年生、4年生の概略の他に、4年生の第1回目の授業案を紹介する。

2.1 附属幼稚園の英語活動学習プログラム

1	10月21日(火) Main topic "Numbers"	<ul style="list-style-type: none"> ○Hello Songを歌う。 ○挨拶をする。 ○歌(リズムに合わせて楽しく踊りながら歌う。) <ul style="list-style-type: none"> ♪ [Five little monkeys] ♪ [seven steps] ○数で遊ぼう(数の英語での表現の仕方に親しむ活動) ○リズムに合わせて楽しく踊りながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ♪ [Ten little pumpkins] ○人数あわせゲームをする。 T: Let's make groups of (***) . (友達同士で人数あつめゲームを楽しむ活動) ○終わりの挨拶
2	11月20日(木) Main topic "Action"	<ul style="list-style-type: none"> ○Hello Songを歌う。 ○挨拶をする。 ○リズムに合わせて楽しく踊りながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ♪ [Five little monkeys] ♪ [Open Shut Them] ○体を動かして遊ぶ。(動作を表す表現の仕方に親しむ活動) clap, stamp, jump, shake, say, "yahoo!" ○リズムに合わせて楽しく踊りながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ♪ [If You're Happy and You Know It] ○絵本 [Tiny Boppers] ○終わりの挨拶

2.2 附属小学校3年生用の英語活動学習プログラム(大学出張授業編)

2008年度は10月から毎週金曜日に3年生2クラスで英語活動を実施している。2008年10月から12月までの活動内容の大体の流れは表2に示すとおりである。

表2 附属小学校3年生用の2008年度10月から12月の英語活動学習プログラム

1	10月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> あいさつとHello song ABC steps (Seven steps のメロディでアルファベットを歌う歌) アルファベットの大文字の読み方の学習 ピコピコハンマーゲーム
---	-----------	---

		アルファベットの大きい文字の読み方の復習 Good-bye songとあいさつ
2	10月31日 (金)	あいさつとHello song ABC steps 前時の復習 アルファベットの小さい文字 (a～g) の読み方の学習 アルファベット神経衰弱ゲーム アルファベットの小さい文字 (a～g) の読み方の復習 Good-bye songとあいさつ
3	11月7日 (金)	あいさつとHello song Head, shoulders, knees, and toes (英語の歌) 前時の復習 アルファベットの小さい文字 (h～n) の読み方の学習 アルファベット神経衰弱ゲーム アルファベットの小さい文字 (h～n) の読み方の復習 Good-bye songとあいさつ
4	11月14日 (金)	あいさつとHello song Head, shoulders, knees, and toes 前時の復習 アルファベットの小さい文字 (o～t) の読み方の学習 アルファベット神経衰弱ゲーム アルファベットの小さい文字 (o～t) の読み方の復習 Good-bye songとあいさつ
5	11月21日 (金)	あいさつとHello song Head, shoulders, knees, and toes 前時の復習 アルファベットの小さい文字 (u～z) の読み方の学習 アルファベット神経衰弱ゲーム アルファベットの小さい文字 (u～z) の読み方の復習 Good-bye songとあいさつ
6	12月5日 (金)	あいさつとHello song We wish you a merry Christmas (振り付き) 前時の復習 フォニックス読みの学習 (a～f) ピコピコハンマーゲーム フォニックス読みの学習 (a～f) 復習 Good-bye songとあいさつ
7	12月12日 (金)	あいさつとHello song We wish you a merry Christmas (振り付き) 前時の復習 フォニックス読みの学習 (g～m) ピコピコハンマーゲーム フォニックス読みの学習 (g～m) 復習 Good-bye songとあいさつ

8	12月19日 (金)	【クリスマスお楽しみ会】 あいさつとHello song 院生1名が演じる「Peach Boy」の英語劇 Good-bye songとあいさつ
---	------------	--

2.3 附属小学校4年生用の英語活動学習プログラム(大学出張授業編)

2.3.1 2008年10月から12月までの学習プログラムの概略

2008年度は10月から毎週金曜日に4年生2クラスで出張授業による英語活動を実施している。2008年10月から12月までの英語活動内容の大体の流れは表3に示すとおりである。

表3 附属小学校4年生用の2008年度10月から12月の英語活動学習プログラム

1	10月24日 (金)	あいさつとHello song アルファベット体操 (歌って踊りながら, アルファベットの小文字の各文字が四線のどこに位置するかを児童が理解するのを支援する目的の, 振りつけつき歌) アルファベットのフォニックス読みの復習 音の足し算ゲーム(例: c + a + t = cat) サイレントeの発音のルール (a - e) の学習 サイレントeの発音のルールを用いて, いくつかの英単語を読む活動 See you songとあいさつ
2	10月31日 (金)	あいさつとHello song アルファベット体操 音の足し算ゲーム サイレントeの発音のルールの復習 カルタ取りゲーム See you songとあいさつ
3	11月7日 (金)	あいさつとHello song アルファベット体操 サイレントeのa - eの読み方の復習 サイレントeの新しい読み方 (i - e, o - e) の学習 サイレントeの新しい読み方 (i - e, o - e) のルールを用いて新しい英単語を読む活動 アルファベット神経衰弱ゲーム See you songとあいさつ
4	11月14日 (金)	あいさつとHello song アルファベット体操 サイレントeのa - e, i - e, o - eの読み方の復習 ワークシートを用いた活動 See you songとあいさつ
5	11月21日 (金)	あいさつとHello song アルファベット体操 (アルファベット小文字の特徴を確認しながら体操しながら歌う) サイレントeのa - e, i - e, o - eの読み方の復習 (チャンツ仕立てで) ワークシートを用いた活動 See you songとあいさつ
6	12月5日 (金)	あいさつとHello song アルファベット体操 (ばらばらにしたアルファベット小文字の特徴を確認しながら体操しながら歌う)

		<p>サイレント e の a-e, i-e, o-e の読み方の復習 (8ビートのリズムに乗ったチャント仕立てで)</p> <p>新しいサイレント e の読み方 (u-e, e-e) のルールをおぼえる活動</p> <p>新しいサイレント e の読み方 (u-e, e-e) のルールを用いて英単語を読む活動</p> <p>リズムボックスを用いて u-e, e-e の復習をする活動</p> <p>See you song とあいさつ</p>
7	12月12日 (金)	<p>あいさつと Hello song</p> <p>リズムボックスを用いて u-e, e-e の単語を中心に復習する活動</p> <p>サイレント e のまとめ</p> <p>リズムボックスを用いた u-e, e-e の復習</p> <p>DVD (松香フォニックス) をみて, サイレント e の総復習</p> <p>DVD (松香フォニックス: 約12分) の「マジック e (サイレント e の別名)」に出てくる単語を確認し, 全員で歌う活動</p> <p>See you song とあいさつ</p>
8	12月19日 (金)	<p>【クリスマスお楽しみ会】</p> <p>サンタクロースやトナカイの扮装をした授業者が登場 (We wish you a merry Christmas の BGM)</p> <p>あいさつと Hello song</p> <p>アルファベット体操特別版 (テンポや体の動きを工夫)</p> <p>ゲームで用いる英単語の復習</p> <p>ジェスチャーゲームをする</p> <p>See you song とあいさつ</p>

2.3.2 2008年度第1回目の授業案

表3で, 第8回目までの授業案の概略を示したが, 以下にその第1回目の授業案を示す。

第4学年1, 2組 英語活動指導案

平成20年10月24日 (金)

〈授業者〉

11:50~12:20 (4年1組)	11:15~11:45 (4年2組)
上越教育大学大学院 1年 Carol	上越教育大学 3年 Ron
1年 Genie	3年 Monica
2年 Mary	4年 Joe
3年 Sally	4年 Minnie
研究生 Linda	上越教育大学大学院 2年 Kevin

1 題材名 「Phonics -サイレントe-」

2 本時のねらい

- (1) アルファベット26文字 (小文字) の名前と音の復習をする。
- (2) フォニックスルール「サイレントe」を知り, そのルールを使った4文字の簡単な英単語を読むことができる。
- (2) フォニックスに親しみ, 友達と一緒に楽しんで活動に取り組むことができる。

3 準備するもの

- ・文字カード (大文字&小文字&絵入りカード) 26枚
- ・文字カード (小文字…音のたし算用)

- ・絵カード（フォニックス-サイレント e を使った単語）
- ・アルファベット体操（DVD）

4 本時の展開（30分間）

分	学 習 活 動	指導・支援上の留意点・[評価]
7	<p>1. 英語でのあいさつや歌を歌って活動を始める。 【あいさつ】 『Hello Song 』を一緒に歌う。</p> <p>【歌】 『アルファベット体操』を曲に合わせて踊りながら歌う。 ※1回目は視聴のみ，2回目は一緒に体操する。</p>	<p>・歌にジェスチャー等を加え楽しい雰囲気で活動を始められるようにする。</p> <p>[自分のことを英語で伝えようとしているか。] [音の違いを感じて楽しく踊ったり歌ったりしていたか。]</p>
8	<p>2. フォニックスの復習・練習をする。</p> <p>○昨年習ったアルファベット26文字の名前，音の読み方の復習をする。 ※小文字の名前と音を中心に復習する。 ○小文字カードを使って音の足し算をする。</p> <p>c+a+t [cat] m+i+l+k [milk] s+u+n [sun] c+r+a+b [crab] p+i+g [pig] b+a+g [bag] f+o+x [fox] b+u+s [bus] g+o+l+f [golf]</p> <p>m+a+t+e あれ？発音ができない！</p>	<p>・絵カードを見せながら質問し，アルファベットの名前，音の発音のふりかえりをさせる。特に小文字の音に焦点をあて復習させる。</p> <p>・単調な繰り返しの練習にならないように，発問や提示を工夫する。</p> <p>・フォニックスの基本発音で構成された単語を取り上げ，音の足し算をさせる。</p> <p>・絵カードを提示し，その単語が何を表現していたのか確認させる。</p> <p>[既習の内容を思い出しながら，楽しく活動に参加できているか。] [すすんで聞こえる音を真似して発話しようとしているか。]</p>
13	<p>3. サイレント e のルールを覚える。</p> <p>○発音の仕方のルールを知る。</p> <p>a e</p> <p>今日のチャレンジ 読み方の新しいルールをおぼえよう</p> <p>※4つの部屋で，2番目にa，4番目にeの時，aは名前の音（エイ）と読み，eは読まない⇒フォニックス新ルール【サイレントe】</p> <p>m a t a</p> <p>mの音 + aの名前 + tの音 読まない</p>	<p>・これまでの基本ルールではうまく発音できない単語と出会わせ，新しいフォニックスルールへ導く。</p> <p>・サイレント e のルールが理解しやすいように，4文字でできた単語のみに限定し提示する。</p> <p>・アルファベットaの名前と音に振り返り，違いを確かめながら，丁寧に発音の仕方を説明する。</p> <p>・サイレント e のルールで単語が読めたら，その単語の表す意味を，絵カードで提示し，読み方と意味をつなげる。</p>

2	<p>○サイレント e のルールを使って単語を読む。</p> <p>game (ゲーム) name (名前) cake (ケーキ) tape (テープ) cape (マント) gate (門) date (デート) sale (セール) case (ケース) wave (波) lake (湖) male (男の人)</p> <p>4. 終わりのあいさつをする。 『Good-bye song』を一緒に歌う。 Good-bye, everyone. See you!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ身近に存在する単語から提示していく。 ・子どもたちの発話の様子を把握し、ルールの理解が難しい場合は、あまり多く単語を提示せず、2～3語に留め、読み方を丁寧に繰り返すようにする。 <p>「サイレント e のルールを使って、新しい読み方に進んで挑戦しようとしているか。」</p> <p>「新しいルールを使っての単語の読み方に興味をもち、楽しんで活動できているか。」</p>
---	--	---

3. 今後の課題

本稿では、平成20年（2008年）度に附属幼稚園、附属小学校と協同で実施している英語活動学習プログラムの根本としている考えと同学習プログラムについて述べた。同学習プログラムの効果についての評価は今後の課題である。今年度終了時に、評価を実施し、同学習プログラムの効果を確認する予定である。その結果を基に、園児、小学校児童にとって、楽しいだけではなく発達段階を考慮し、知的好奇心を刺激できるような英語活動プログラムを構築していくことが必要であると考えられる。

引用・参考文献

- Curtain, H., & Pesola, C.A. (1994). *Languages and children: Making the mach* (2nd ed). White Plains, NY: Longman.
(伊藤克敏ほか(編). 『児童外国語教育ハンドブック』. 東京: 研究社, 2005).
- 長井純子. 2006. 「小学校高学年の児童が意欲的に取り組む英語活動のあり方」. 『神奈川県立総合教育センター長期研修員研究報告 4』. 89-92.
- 中山兼芳編. (2001). 『児童英語教育を学ぶ人のために』. 京都: 世界思想社.
- 野呂忠司. (2007). 「小中連携と文字指導」『小学校英語と中学校英語を結ぶー英語教育における小中連携ー』. (松川 禮子・大下邦幸編著). 東京: 高陵社書店. 102-118.
- 長谷川信子. (1997). 『第3章 小学校からの外国語教育』. 樋口忠彦編. 東京: 研究社出版株式会社.
- 樋口忠彦他編. (2005). 「これからの小学校英語教育ー理論と実践ー」. 東京: 研究社.
- 小泉清裕. (2003). 「高学年向き各教科の内容を取り入れた英語活動の実践」. 松川禮子(編著). 『小学校英語活動を創る』. 東京: 高陵社書店. 110-12.
- 松川禮子. 2004. 『明日の小学校英語教育を拓く』. 東京: アプリコット.
- 箕浦永生. (2005). 『3章 これからの小学校英語教育ー理論と実践ー』 樋口忠彦・金森強・國方太司編 東京: 研究社. 70-72.
- 文部科学省. 2001. 『小学校英語活動実践の手引』. 東京: 開隆堂出版.
- 文部科学省. 2007. 平成19年度小学校英語活動実施状況調査集計結果 (2008年10月1日検索).
http://www.mext.go.jp/b_menuoudou/19/03/07030811/004.htm.